



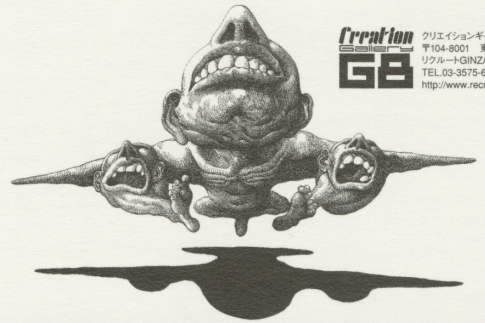
辰巳四郎

「音のない叫び-70年代イラストレーション」展

2004年11月29日[月]→12月22日[水]

11:00a.m.~7:00p.m.(水曜日は8:30p.m.まで) 土・日休館 入場無料

主催:クリエイションギャラリーG8



Creation
G8
クリエイションギャラリーG8
〒104-8001 東京都中央区銀座6-4-17
リクルートGINZA8ビル1F
TEL.03-3575-6918
<http://www.recruit.co.jp/GG/>





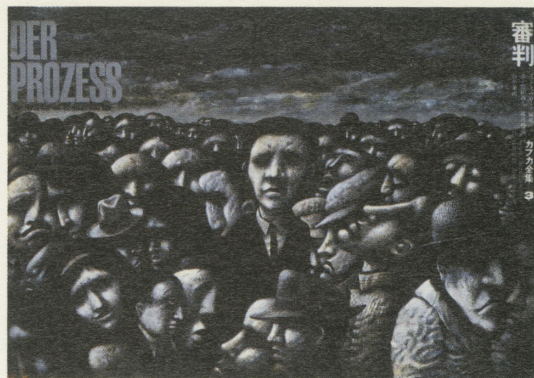
辰巳四郎氏は、早稲田大学法学部卒業後、武蔵野美術大学に学んだ異色の経歴の持ち主です。何よりも描くことが好きで、ペン、鉛筆、筆、エアブラシ等、あらゆる素材を使いこなし、多種多様な多くの作品を世の中に発表する一方で、自分の絵に対する夢を持ち続けたいと、見せることを前提としない、仕事以外の自分のためだけの絵を描き続けたといえます。

そんな氏は、ある種アクとも言える強い個性を持ち、ヒヤリとした空気を出しながら見る者を引きつける抽象画、緻密でありながら大胆で強いエネルギーを持つリアルイラストレーション、そして、装丁では多重露光を使い、写真とイラストをフィルムの上で合成するなど、常に新しい表現に挑戦しながら多方面で活躍してきました。

70年代の『朝日ジャーナル』連載の「派兵」のイラストレーションや80年代の『BigA』の表紙ではイラストレーションによる表現の多彩さを披露。90年代の綾辻行人の『十角館の殺人』ではじまる新本格と呼ばれるミステリー小説ブームは、氏のデザイン抜きでは語れないと言われるほど、ミステリーファンに支持されました。また、近年の、財界人・芸能人等を描き続けた『月刊経営塾』『TV Taro』の表紙は多くの人の記憶に残っていることでしょう。

辰巳氏の急逝から1年、本展では、氏が強い愛着を持っていたと言われている1968年発表のB全3連作作品「1968～のイラストレーション」をはじめ、1500点以上の作品の中から70年代の作品を中心に、未発表のオリジナル作品を含め、原画約100点を展示致します。描くこと、制作することを心から楽しんでいた氏の技とエネルギーを感じていただければと思います。

クリエイションギャラリーG8



辰巳四郎

「音のない叫び〜70年代イラストレーション」展

2004年11月29日[月]→12月22日[水]
11:00a.m.~7:00p.m.(水曜日は8:30p.m.まで)
土・日休館 入場無料

主催：クリエイションギャラリーG8

オープニングパーティー：11月29日[月] 7:00p.m.より行います

第164回クリエイティブサロン

日時：2004年12月14日[火] 7:00p.m.~8:30p.m.

会場：クリエイションギャラリーG8 入場無料

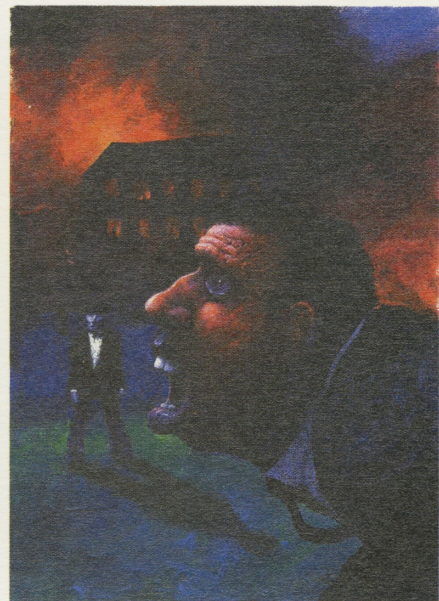
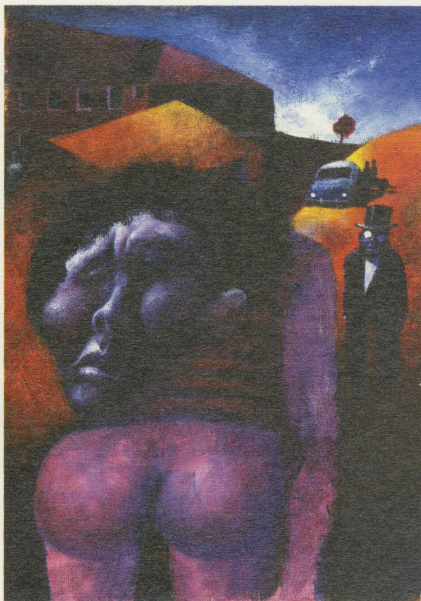
要予約(TEL.03-3575-6918)

ゲスト：河村要助、下谷二助、山崎英介



辰巳四郎 Shiro Tatsumi

1938年東京生まれ。1957年早稲田大学第一法学部入学。美術研究会に入部。1959年早稲田祭ポスター・パンフレット表紙のコンテストで金賞受賞。審査員の亀倉雄策氏に会いデザイナーという職業を知る。1961年早稲田大学卒業。同時に武蔵野美術大学本科商業デザインに入学。1962年日宣美初入選。1965年まで連続で入選。同年武蔵野美術大学卒業、電通入社。1966年「カフカ全集・審判」が日宣美特選に選ばれる。1967年「法王庁の抜け穴」など4点が日宣美特選、他2点が入選。1968年電通退社。フリーになる。1972年「派兵」イラストでADC賞銀賞受賞。広告、エディトリアルなど数多くのイラストレーションの他、晩年はデザイナーとして、特にミステリー関係の装丁を数多く手掛け、装画の分野でも第一人者として多くの作家・ファンを魅了。講談社ノベルス、綾辻行人「館シリーズ」・島田荘司「御手洗シリーズ」のカバーデザインや「TV Taro」「月刊経営塾」の表紙を担当。2003年11月5日、心不全にて永眠。享年65歳。著書：「イラストレーション・ナウ=辰巳四郎の世界」(立風書房)、「辰巳四郎とイラストレーション」(美術出版社)



creation G8 クリエイションギャラリーG8
〒104-8001 東京都中央区銀座8-4-17
リクルートGINZA8ビル1F
TEL.03-3575-6918
<http://www.recruit.co.jp/GG/>

